

祝 創立40周年

Memorial Hall完成

ミレニアム
千年紀に起工、21世紀初頭の竣工、
そして来年40周年を迎える —— 智的空間。



来年迎える創立40周年を記念して、白陵に新たなシンボルが誕生しました。
それは、21世紀の門出を飾るにふさわしい、スポーツ・芸術文化の殿堂たる、アカデミックな
智的空間です。

柔道場北のクヌギの森に建設された、この総面積4,987㎡のダイナミックな建造物は、白陵
に新しい風を吹き込み、生徒達を大きく育み、そして数々の素晴らしい感動の場を提供してくれ
ることでしょう。

会員の皆様方もきっと母校を訪ねられた時の楽しみが増えることと思います。

寄付金募集へのご協力をお願いします

すでにご案内のとおり、白陵会では母校のこの40周年記念事業に際し、母校のより健全な発展を願う我々の気持を集約し、会員の皆様方を対象に本年2月より寄付金募集をはじめております。

すでに多くの方々からご応募をいただきましたことに心より厚く御礼申し上げます。

しかし、できる限り多くの会員の皆様方のご理解を賜り、会を挙げて支援したいと存じますので、まだの方におかれましては、この機会にぜひともご応募賜りますようお願い申し上げます。

■本寄付金は、1口 10,000円とします。

※できる限り2口以上の口数でご協力ください
ますようお願い申し上げます。

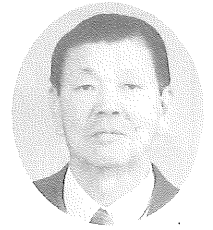
■寄付金のお払込は最寄りの郵便局から
次の口座へお願いします。

※必ず卒業期生を書いてください。

●郵便払込口座

神戸01160-9-45040

加入者名 白陵同窓会



鯉のぼり舞う

— ご挨拶にかえて —

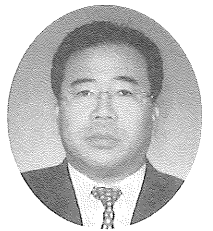
理事長 三木 一正

白陵キャンパスの国旗掲揚柱に鯉のぼりが吹き流しとともに爽やかな薫風にたなびいたのは、開校以来初めてのことでした。学園創立40周年を来年に控えて、同窓会の皆さん方や多くの人々に助けられながら、漸くにして建ちあがった記念棟（新体育館）本体の竣工した5月1日、生徒を代表して生徒会役員男女13名の手によって、雲一つない青空に、記念棟の前途を祝した鯉のぼりが天高く舞ったのです。若下事務長のアイデアに浅江校長の登龍門の解説が加わり演出効果満点といったところでしょうか。生徒を主体とした内輪の竣工式でしたが、同窓会長、副会長を始め役員皆さんが忙しい中を式典と祝賀の会に参列、厳肅な中にも和気藹藹のうちに明日への期待を秘めてセレモニーを無事終わることができました。

しかし工事はなかなか難工事でした。クスギ林を切り開いての造成工事中に敷地の片隅から根石の岩盤があらわれたのです。この多量の石をどうするか、ここが思案のしどころと建築業者と頭をひねった結果、石を大きめに砕いて記念棟横の溪流の縁に、自然に素朴な形で敷きつめることにしました。白陵の石で、白陵の自然を創る、そしてせせらぎの水の流れに耳をすまして心を癒す、いかにも白陵らしい(?) 自画自賛の図といったところです。とはいってもこの建物にはまだネーミングが決まっています。これからの新しい智慧をしばらくと頭をひねっているところです。

来年はいよいよ創立40周年、この記念棟を新しい白陵の顔として内容の充実と発展をめざしたいと考え、創立40周年に東大40名を合格させようと「40・40作戦」を合言葉に職員生徒一丸となって頑張っているところです。また一度ぜひ母校白陵をお訪ねください。

先輩諸兄姉のますますのご健勝を心から祈っています。



母校により一層のご支援を

白陵会会長 沼田 好道

盛夏の候 会員の皆様方には、ますますご隆昌のこととお慶び申しあげます。平素は本会活動にご協力を賜り誠にありがとうございます。

昨年八月に開催した白陵会二〇〇〇年総会では、数多くのお懐かしいお顔に接することができ、世界最優秀ソムリエの田崎真也氏を講師に迎えてのワインに関する楽しい講演会も好評を博し、お世話した役員一同大変嬉しく安堵いたしました。次回二〇〇五年総会もゆとりある企画にてご案内したいと思っておりますので、ぜひ次回も多数お誘い合わせの上ご参加くださいますようお願いいたします。

さて、待望久しかった新体育館が創立四十周年メモリアルホールとしての度目度度竣工いたしました。第一期生の卒業式以来使用してきた現在の体育館も老朽化が進み、また生徒数の増加に伴い手狭にもなっていたようですが、この度新築なったスポーツ・芸術文化の殿堂たる記念棟は、発展著しい白陵を象徴する建物として、その威容を広く全国に轟かせることと確信しております。

全国屈指の大学進学実績を残し揺るぎない地位を固めている白陵が、このように創立四十周年を機に更に躍進してゆく姿を目の当たりにすることは、同窓会にとりまして誠に誇らしく嬉しい限りでございます。

また、現在募集を進めております寄付金募集に際しましては、すでに延べ223名の方々より総額約700万円のご寄付をお寄せいただきました。本当にありがとうございます。心より厚く御礼申し上げます。できるだけ多くの会員の皆様方よりご応募を賜りたいと考え、1口の金額を1万円に設定させていただきました。長引く不況の最中、誠に恐縮ながら、何卒格別のご理解を賜りましてこの記念事業に一層のご協力賜りますようお願い申し上げます。

白陵会では今後とも皆様方のご期待に副うべくより充実した活動を展開してまいります。会員諸氏のますますのご活躍をお祈り申し上げますと共に、母校並びに本会へのご支援ご協力を切にお願い申し上げます。

白陵会役員名簿

平成13年6月23日現在

Table with 10 columns: 役名, 期, 氏名, 役名, 期, 氏名, 役名, 期, 氏名. Lists board members and their terms.

※現在、26期の常任幹事が前任者の都合により空席となっております。後任に心当たりのある会員はご一報下さい。

平成13年 大学入学試験合格者数

Table for National Public Universities (国公立大学) with columns for University Name, 11th year, 12th year, 13th year.

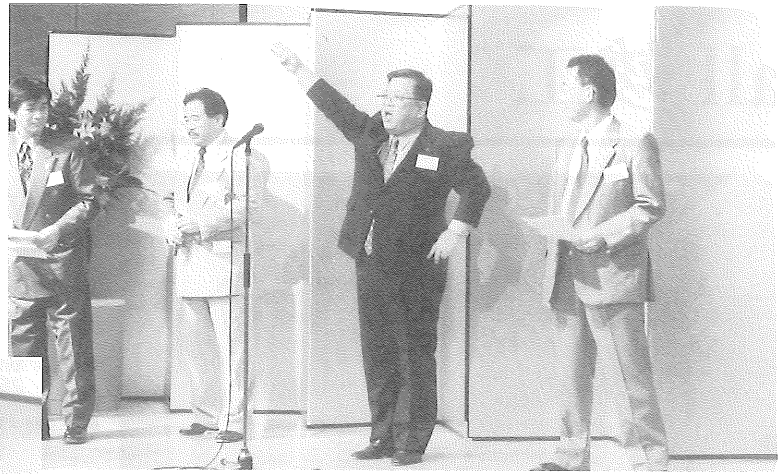
Table for Private Universities (私立大学) with columns for University Name, 11th year, 12th year, 13th year.



二〇〇〇年白陵会総会
平成十二年八月二十六日
姫路キャッスルホテルにて盛大に開催される

五年に一度開催される卒業生のお祭り、二〇〇〇年白陵会総会は、来賓・会員あわせて約二〇〇名が出席し、平成十二年八月二十六日、姫路市内の姫路キャッスルホテルにて盛大に開催されました。日ごろは、仕事に家事にと忙しい日々を送っておられる方々も、この日ばかりは懐かしい高校時代を思い出して恩師や同期・先輩・後輩との再会にゆつくりとした時間を過ごしておられました。今回の総会は、各期単位で任意に予定されている二次会の開催時間を考えて、午後四時からの開催としましたが、早くも三時過ぎには受付を済ませた出席者がロビーでお互いの近況を報告するなど再会を懐かしむ姿が見受けられました。集まった会員は、会場に準備された各期毎のテーブルに着席し、総会は定刻通り午後四時に開会され、吉田達哉総会準備委員長が開会を宣言し、出席者一同、物故者へ黙祷を捧げた後、沼田好道会長が挨拶を述べられました。挨拶の中で会長は、発展を続ける母校へ同窓会を代表して賛辞を贈られると共に、同窓会名簿、会報、総会の三つを柱とした白陵会の活動について報告され、今後とも母校への支援と会員相互の親睦を図るため精一杯の活動を展開していきたいと力強く語り、会員へ協力と呼びかけられました。続いて、浅江季典校長より、学校の近況などの紹介を兼ねたご挨拶をいただいた後、総会審議に入り、会計報告などが満場一致で可決されました。総会に引き続き、講演会を行いました。今回は、会報でもご案内しておりますように、一九九五年度世界最優秀ソムリエの栄誉に輝かれ、ワインに関する多数の著書が出版され、現在、テレビや雑誌で大活躍中の田崎真也氏を東京から講師に迎え、「自己流ワインの楽しみ方」と題しての講演をいただきました。講演では、七月に開催された沖縄サミットにおいて、ホスト国のソムリエとして、首里城の晩餐会で各国首脳を持てなしたワインは、調和というサミットのテーマから参加各国を代表するワインをブレ

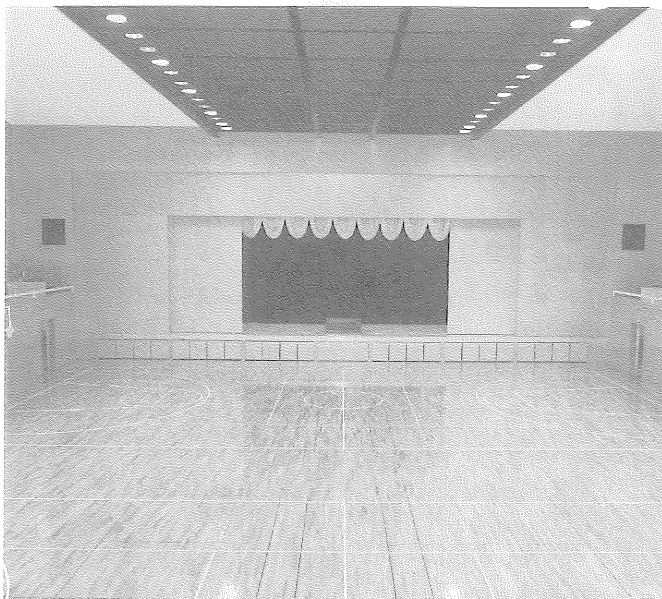
総会だより



ンドしたものを出したところ、特にクリントン大統領に気に入ってもらったという裏話など、タイムリーな話題を盛り込んだ楽しいお話を聞かせていただきました。今回は、講演会だけであればご家族の方も参加可としておりましたので、ご夫婦で楽しみにしてご出席いただいた方もおられました。講演会の後、皆さんお待ちかねの懇親会に移りましたが、三木一正理事長にご挨拶いただいた後、中安久隆教頭の音頭で行った乾杯では、田崎氏のコンセプトである「ワインは憶えてから楽しむものではなく、楽しんでから憶えるもの」を体験するべく、早速、田崎氏推薦の「キユウヴェ・アレクサンドン・メルローカサラポストレ」(一九九八年・チリ産)の赤ワインを賞味いただきました。他にも、この日の飲み物には数種のワインが準備され、一同、会長や総会準備委員会の気配りに感心しながら、同期の仲間や先輩・後輩と輪になって用意された料理で愉快にグラスを傾けておられました。また、恩師として、理事長、校長、教頭先生の他に、故園長先生の奥様の三木茂子様や、赤松初夫、塩見幸一、木良八州雄、吉田卓、南坂繁、前川雅弘、東日出夫、藤田嘉久、山本洋一、若下由紀の各先生方にご出席いただいておりますので、恩師を囲み懐旧談に花を咲かせる風景が会場のおちらこちらで見られました。この間、天野副会長の幹旋によるアマチュアバンド「アノニーモ」による演奏も披露され、一層和やかな雰囲気醸し出していました。この後、校内幹事の岡野清和先生が編集された「学校近況紹介ビデオ」が上映されると、懐かしい校舎や学校行事には歓声があがり、ロンドン修学旅行の風景には驚きの声が続いておりました。

最後に学生時代に応援団長の経験のある三期生の杉田茂篤氏のリードで、校歌・寮歌を高らかに歌い上げ、三本締めで懇親会を締めくくり、次回総会での再会を誓って散会となりました。今回の総会では、夏期補習中のお忙しい中、ご来臨賜りました諸先生方をはじめ、ご遠方より多数お集まりいただいた会員諸氏に心から御礼申し上げます。皆様方のますますのご活躍、ご多幸をお祈りし、次回総会でお会いできることを楽しみにお待ちしております。

Hall 竣工



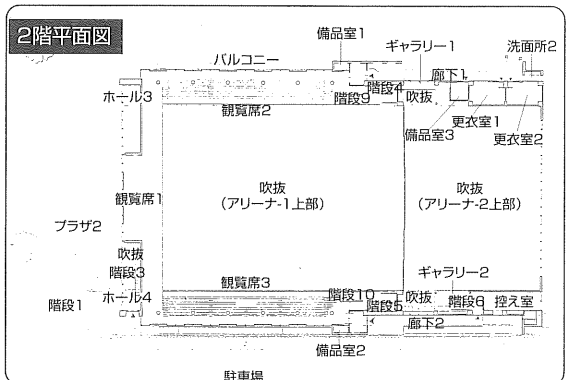
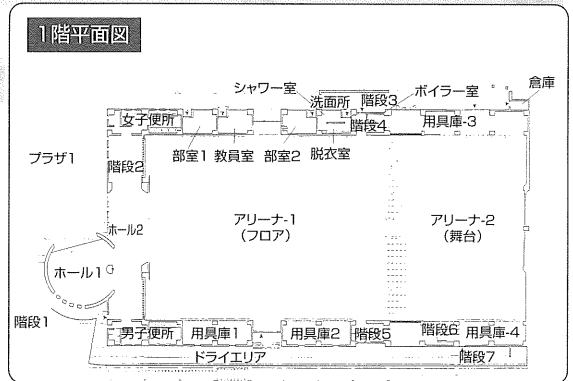
施設概要

- 構造／鉄骨鉄筋コンクリート造及び鉄骨造り
2階建、一部3階建
- 仕上材／屋根：鋼板折板葺、
外壁：鋼板及びコンクリート打放し
- 規模／敷地面積6,035.81㎡、延床面積4,216.7㎡
- 設備／スポーツ関連コート、芸術文化関連舞台、
本格的照明音響設備完備
- 設計管理／株式会社堀建築設計事務所
- 施工／平錦建設株式会社
- 総工費／1,000,000,000円

晴天に恵まれた平成十三年五月一日の大安吉日、新緑につつまれた白陵キャンパスのメインホールに鯉のぼりが勢いよくおよぐ中、待望久しかった創立四〇周年記念棟（メモリアルホール）の竣工式が全校生徒と学校関係者を集め盛大に挙行されました。竣工式は神事による儀式的後、学校関係者と中高全校生徒一〇二四名が見守る中、三木理事長、浅江校長、山城育友会長、沼田同窓会長、萩原後援会長はじめ、設計・施工工事関係者がドラの音にあわせてテープカットを行い、その後、全員が館内に入場着席し式典が執り行われました。三木一正理事長は式辞の中で、開校三年後の昭和四十一年現体育館の建築中に第一回の白陵生が卒業してから三十五年、この度もまた建築の植音が響くこの建物から第三十六回の卒業生が巣立っていった。この建築敷地となった山林は当時校地の中に未買収の民地として残っていたところを、当時の育友会の方々が学園の将来のため「何とか購入しよう、私達も応援します」と励ましていただき地権者の方々のご理解を得て取得した経緯がある。その山林を切り拓き、本日、ここにこの記念棟の竣工をみたことは職員一同誠に感慨無量のものがある。特に、数百年のクヌギを伐採して建築用地を造成することについては、命の大切さを教える学校教育の現場の責任者としてずいぶん悩んだが、日本の将来を担う生徒達がこのスポーツ・文化芸術の殿堂の完成により、より生き生きと学校生活を送ることによって、世界に通用する大きな人材として育ってもらいたい。このために木々達の命を活かしていきたいと考え建築に着手した。そのためにも、この建物に真の魂を入れるのは生徒諸君自身であると力強く訓示された。引き続き浅江季典校長は、用地造成時に出た岩石が小川のせせらぎの庭園に用いられたり、伐採した竹藪の竹を利用して造られた竹垣などを例に挙げ、この建物はその周囲にも心遣いが一杯詰まった建物であることを紹介した上で、登龍門の謂われを説きながら生徒一人一人が鯉から龍になるようチャレンジしてもらいたい。君たちは四〇年間のたくさんの先輩の歴史を背負って今この場にいる。平素は歴史を背負って生活しているという意識は少ないが、この機会に十分考えて、皆さんの期待にこたえられるよう日々の努力を誓って欲しいと呼びかけられました。その後、山城信行育友会長の祝辞の後、設計・施工会社へそれぞれ感謝状が贈呈され、生徒会長の直田庸介君が「白陵のアイデンティティは私達自身である。記念棟への大きな期待と私達の責任の自覚を誓ってよろこびのことばとします。」と力強く慶詞を読み上げ式典は滞り無く終了しました。

創立40周年

Memorial



白陵軍団全員集合(12)

～ 県職白陵会 ～



兵庫県庁に勤務する卒業生で組織する「県職白陵会」は十三年度現在構成員は六十四人。一期生の藤岡憲弘を会長に年一回の懇親会を開催して、会員の親睦を図っています。少し前までは、毎年の新規採用職員の数も三名程度が白陵出身で、会員数が順調に増える傾向にあったのに対し、最近では、県庁の新規採用数の減少に伴い、なかなか白陵OBの新規採用が少ない状況になってきましたが、本年度は新たに一名を新しい仲間を迎えました。

また、会の運営の難しいところは、県庁職員の勤務先は、南は淡路、北は但馬までに広がっており、なかなか全員で集まる機会を作ることができないという事です。平素仕事でよく知っているのにもかかわらず、後で、白陵会の名簿でみて、「おアイツ、白陵やったんかいな。」ということもあります。

こうした中で、何とか毎年一回の懇親会開催を目標とし、今回は、第六回を、昨年十一月十五日に神戸市内で開催しました。県庁では、ちょうど行財政構造改革に取り組んでおり、いろいろと忙しい中、中堅職員から、元気がいっぱい若手職員まで十七人が集まり、昔話に花を咲か

せたり、現在の仕事の情報を交換したり、大いに盛り上がり、にぎやかなひとときを過ごしました。

なかでも、今回は、白陵OB初の県議となった、十九期生の北口寛人議員も出席、今後の抱負を伺い、会員一同大いに意気あがりました。

県庁の業務内容は、非常に広範囲で多岐にわたっており、また、職員数も多く、日々の情報把握が大切で、そういうときに白陵会のネットワークを活用できるのではないかと考えています。また、会員も一期生から数えると、若手職員までだいたい三十才の年齢差があり、世代間の交流にもなります。さらに、最近では、県職員の子弟が多数白陵生となっており、こういったことから「白陵」の名の広がりを感じられます。

二十一世紀は「地方の時代」、「こころ豊かな兵庫」をめざしてがんばっています。そうしながら、何とか、毎年最低一回は懇親会を開いて行きたいと考えていますので、応援下さい。

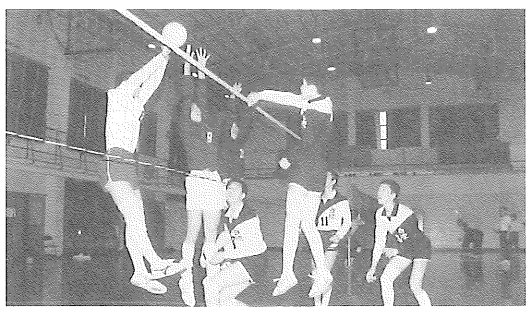
また、岡山白陵OBとの合同会も考えていきたいと思っています。

(敬称略)

在 校 生 ク ラ ブ 活 動 紹 介

バレーボール部

「魂智和」バレーボール部です。現在中高部員総数三十名（内、新中一が十名）。この少人数でも長年に渡って、県下でも一目を置かれる存在であり続けてきました。そして、去年は秋の県新人大会でベスト8という最高の快挙を遂げました。バレーというチームプレーの特性を考えると、いかに大変なことか理解していただけると思います。体育館を使える日が週に四日（中高とも一面ずつ使えるのは多くて二日。平均一時間強）。休日の練習は試合前以外は無し。そんな少ない練習で勝っているのは、川副先生の厳しさの内に秘められた生徒への熱い思いと、緻密で的確な練習メニューにあるのです。又、六年前にOB会が発足し、物心両面で支援してもらっています。夏の合宿はOBであふれかえります。せっかくなので中一にも「やっつけて良かった」という思いを味わってもらうため、四人の顧問が責任を持って見ていきます。記念棟も完成しましたので、是非期待して下さい。



大会実績

平成9年度	兵庫県新人大会	ベスト16
平成12年度	兵庫県新人大会	ベスト8
	兵庫県選抜大会	ベスト8

部員数
 中学：男子21名
 高校：男子10名

顧問教員
 川副義文先生・村上幸生先生
 中村大吾先生・真弓寛文先生

部長
 高校2年1組 堀 素史

将棋部

白陵将棋部の練習風景

将棋部の現在の部室は、昨年より白陵寮の第2寮の1階にある。その狭い一室で部員と顧問が身体をくっつけるようにして対局している6月にもなると蚊に刺され、12月になると寒さに耐えながら、しかし将棋は面白い、愉快だ。特に劣勢をくつがえして勝った時の快感は何物にも替えがたい。「勝った！」と叫びたくなる。ストレス解消にもなる。

白陵将棋部の名物は、10秒将棋である。両者一手10秒以内に指さなければならぬ。すばやく局面を把握し、直観的に指すのである。これに慣れるといわゆる早見えができるようになり、試合の30秒の秒読みが長く感じられて短時間で的確に読むことができる。

練習は毎日4時から6時までやっているが、皆非常に熱心であり、有段者は10人を越えている。特に高3の今井智士君（4段）は、昨年個人戦で全国でベスト16に入り、今年も全国大会出場を果たし、活躍が期待される。



大会実績

大会開催年月	大会名	順位	等
H.11.5	兵庫県 高校将棋選手権	男子団体戦1位 女子個人戦1位	
H.11.11	兵庫県 高文連将棋大会	男子個人戦1位・2位 女子個人戦2位	
H.12.5	兵庫県 高校将棋選手権	男子個人戦1位・団体2位 女子個人戦4位	
H.12.11	近畿 高文連将棋大会	男子個人戦2位・3位 女子個人戦2位・3位	
H.12.11	兵庫県 秋季リーグ戦	男子団体戦1位	
H.13.5	兵庫県 高校将棋選手権	男子個人戦1位 男子団体戦2位	
H.10~12 (8月)	播但 高校将棋大会	男子団体戦3連覇 男子個人戦2連覇	

部員数
 中学：男子10名
 高校：男子13名・女子2名

顧問教員
 原田正和・宇津木博先生
 部長 高校2年5組 和佐雅宏

原田 正和

白陵会 平成12年度決算報告書
平成12年4月1日~平成13年3月31日

支出の部

Table with 4 columns: 科目, 予算額, 決算額, 差異. Lists various expenses like 事務費支出, 会議費支出, 事業費支出, etc.

収入の部

Table with 4 columns: 科目, 予算額, 決算額, 差異. Lists various income items like 前年度繰越金, 会費収入, 雑収入, etc.

白陵会 平成12年度 会務報告

Table with 4 columns: 年月日, 内容, 年月日, 内容. Lists activities like 広報委員会, 総会, etc.

*予備費予算500,000円を印刷費予算200,000円、通信費予算300,000円に振替えた。

白陵会 ニュース

★白陵会会員数(平成13年4月現在)
正会員

1期生 36期生 6、070名(内物故者48名)
在校生 高校573名(内女子127)
中学452名(内女子101)

★住所変更の際は、ご連絡を!

現在、正会員6、070名の内、1割の約600名が住所不明となっております。
転動等で転宅された場合は、お手数ながら転居先を事務局までお知らせください。

★同窓生出版紹介

北岡武司氏(3期生)
「カントと形而上学」 世界思想社
物自体と自由をめぐる

宮嶋茂樹氏(15期生) 最新作

「不肖・宮嶋の天誅下るべし!」 詳伝社
写真に嘘は写らんぞ!
15期生でフリーカメラマンとして国内外で多くのスクープ写真をモノにして、週刊文春を中心に「不肖・宮嶋」のドキュメントを発表し多くのファンを擁している、自称、写真界のハリウッドこと宮嶋茂樹氏。平成8年の総会では愉快な講演をしていただいたので、同窓生にもファンが多いと思いますが、その後も、続々と爆笑ドキュメント大作を出版されています。

「人間赤尾敏」(話の特集社)
「陸・海・空・婦人自衛官写真集 自衛隊LA DIES」(スコラ社)
「ああ、堂々の自衛隊」(死んでもカメラを離しません)
「空爆せよ!」(サウナナラ)
「ネエちゃん 撮らせんかい!」(以上、ザ・マサダ社)
「不肖・宮嶋 史上最底の作戦」(太田出版)

「不肖・宮嶋 南極観測隊二同行ス」(不肖・宮嶋 踊る大取材線) (以上、新潮社)

★偽の名簿作成電話にて用心

前号でもお知らせしましたが、あたかも同級生か同窓会事務担当者装って留守宅へ白陵の同窓会名簿をつくるので下宿先住所や大学名を教えてほしいとの電話がかつてくることがあるそうです。
白陵会では、5年毎に名簿を発行していますが、本会からの事前調査は往復文書で行っております。身元のはっきりしない偽の問い合わせはくれぐれもご用心ください。

白陵会 物故者(心よりご冥福をお祈りします。)

- 現田 誠氏 (15期生) 平成12年7月逝去
石垣 文仁氏 (26期生) 平成12年10月逝去
下村 荒木 礼子氏 (3期生) 平成13年3月逝去

★退職教職員紹介

- 前川 雅弘先生 (数) 学 昭和40年~36年間勤務
城谷 公美先生 (国) 語 平成6年~7年間勤務
赤松 初夫先生 白 陵 昭和40年~11年間勤務
(岡山臨 養護 岡山白陵 昭和51年~25年間勤務)
大西 幸和氏 (寮監長) 昭和60年11月~15年5ヶ月勤務

編集後記

今回は、四十周年の記念帳の完成、そして二〇〇〇年総会の報告を中心に、盛りだくさんの内容をお届けしました。楽しんでいただけたでしょうか。
記念棟(新体育館)は、旧体育館の三倍の規模を誇る、まことに壮麗な建物です。その大きさは写真だけでは充分に伝わらないのではないかと危惧されます。百聞は一見に如かず。是非、御自身の目で確かめ下さい。